

仏教絵画 中国・日本

2019年10月26日(土)－12月8日(日)

特別展「仏像 中国・日本」にあわせ、大陸で制作された仏教・道教の絵画や経典、また日本において大陸風を意識して描かれた作品などを中心に展示いたします。こうした作品のなかには類似する作例があまり知られていない、珍しいものもあります。この機会に、これまでなかなか陳列が叶わなかった作品をご覧ください。



《太上洞淵神呪経》巻第19(部分)
明時代・16-17世紀 奈良・薬師寺蔵

明器 — 古代中国 墳墓のやきもの —

2019年12月18日(水)－2020年2月9日(日)



《加彩 駱駝》 北魏・6世紀 本館蔵

古代中国では、墓を靈魂の住まいと考える死生観から、広い地下空間をもつ墳墓が築かれました。そこには、死後も生前と変わらぬ豊かな生活ができるようにとの願いを込めて、祭祀用の器物や家財のミニチュア、人形などの明器が副葬されました。本展では、これらの副葬されたやきものをご紹介します。

没後50年 鍋井克之

2019年12月18日(水)－2020年2月9日(日)

鍋井克之(1888－1969)は小出楯重らとともに二科展で活躍した大阪市出身の洋画家です。戦前から戦後にかけて長らく関西洋画壇をけん引し、また随筆家としても活躍しました。重厚な作風で知られる風景画の代表作、これまで未紹介の関係資料など館蔵品によりその画業を振り返ります。

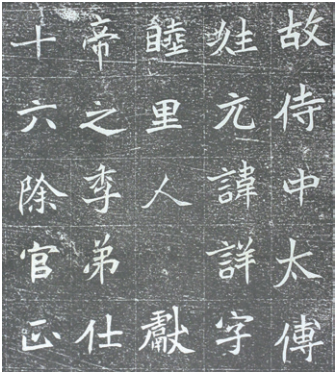


鍋井克之 《鴨飛ぶ湖畔》 昭和7年(1932) 本館蔵(鍋井澄江氏寄贈)

中原の古法 — 北朝石刻書法 —

2020年2月22日(土)－3月22日(日)

439年から589年の間、中国では南北に王朝が並立し、南北朝時代と呼ばれます。南朝の優美な書とは異なり、北朝では隸書から独特の雄渾な楷書が発達し、隋・唐時代の整った楷書に連なります。碑・墓誌・造像銘・摩崖などの石刻に遺された、北朝書法の多様な姿をご覧ください。



《元詳墓誌》(部分) 北魏・永平元年(508)
本館蔵(師古齋コレクション)

春爛漫 花咲くやきもの

2020年2月22日(土)－3月22日(日)

描いたり、彫ったり、造形をかたどったり——古来より花はやきものの定番意匠として、写実的なものからデザイン化したものまで、さまざまに表現されてきました。本展では、



《青花 花唐草文鉢》 景德鎮窯
明時代・15世紀 「大明宣德年製」銘 本館蔵

唐三彩、マイセン、富本憲吉など館蔵品を中心とした古今東西のやきものを展示いたします。春めく季節、やきものに咲いた花々をお楽しみください。

画中游 中国の山水画

2020年2月22日(土)－3月22日(日)

雄大な自然美は、かつて唐の王維が「舟行碧波上 人在画中游」と詠ったように、まるで美しい絵画世界に游んだかのように人の目を楽しませ、心を揺さぶるものでしょう。一方で山水画は、観る者の胸中に実際にその場に訪れたかのような感動を呼び起こしてくれます。本展では館蔵・寄託の山水画の優品をご紹介します。



米万鍾 《山水図巻》(部分) 明時代・万曆34年(1606) 本館蔵